

令和6年度福岡県総合教育会議 議事録

(坂田局長)

それでは、令和6年度福岡県総合教育会議を開会いたします。

私は、本日の司会進行を務めます私学振興・青少年育成局長の坂田と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、服部知事よりご挨拶をお願いいたします。

(服部知事)

皆さん、明けましておめでとうございます。どうぞ今年もよろしく願いを申し上げます。

今日は、令和6年度福岡県総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

日頃から本県の教育行政の推進に関し、深いご理解と、大きなお力添えを賜っております。改めて厚くお礼を申し上げます。

私は県政のチャレンジの一丁目一番地に、福岡県の次代、未来を担う人財を育成するということを掲げてございます。こういう中で、今日も、青少年の健全育成、地域での活動の支援、あるいは困難を抱える貧困の問題に直面している子どもたちを守り育てる、あるいは子どもたちの安全を守るさまざまな活動をしておられる地域の団体の皆さまの表彰をさせていただきました。

このように私たちが子どもたちを、青少年を育てていくということは、我々行政だけではなかなかできない、やはり地域の皆さま方のご理解とそういう取組、こういうものと力を合わせて子どもたちのいろんなチャレンジを応援していくことができるんだろうと思っております、これからもそういう姿勢で臨んでいきたいと考えております。

今日の議題でございますが、「未来を担う人づくり」ということでございまして、今も申し上げましたような青少年育成の中でも、やはり未来、将来の地域を引っ張っていく、牽引していってくれるようなリーダーを育てていきたいということでございまして、中学生を対象として「未来の地域リーダー育成プログラム」というものをおこなっております。

このプログラムは、さまざまなやり方があるんですが、一つのモデルといいますか、基になったのは、田川飛翔塾というものがございます。田川エリアで、もう10年以上やっております。中学生の皆さん方の夏休みに合宿形式でやっております。そこに地域の経営者の皆さんとか、今は田川を離れていらっしゃる方も田川にゆかりの方で、日本で、あるいは世界で活躍をされている方、こういう皆さんのお話を中学生の皆さんに聞いてもらって、郷土に誇りを持ち、そして自分たちがいずれはこの地域を元気にしていくぞ、引っ張っていくぞというふうに思っただくようなプログラムをやっております。

けでございます。

このプログラムにつきまして、私も非常にいいプログラムだなと思ひまして、ぜひ全県的に広げていきたい、それに当たっては、やはり市町村の皆さんと連携をしていくことが必要だということで、そういう方向で今進めておりまして、後ほど説明があるかと思いますが、県内でも三十五市町村に取り組みを行っていただいております。

それからもう一つは、やはり高校生もいずれ世界で活躍していただくような人材になってほしいということで、シリコンバレーの企業や大学で最先端の知識・技術を学ぶ研修、あるいはハワイやオーストラリア等で、県にゆかりのある海外企業、つまりシドニーでもシンガポールでも香港でもそうですけれども、海外県人会というものがあります。現地法人とか駐在員の方とか、あるいは向こうで起業されている方とか、福岡県縁の方がつくっている県人会が多数ございます。そういう中で特に海外で事業を行っておられる企業の皆さんにご協力をいただいて、この海外企業で実際のビジネスの現場を体験してもらう『福岡から世界へ』人材育成プロジェクト』というものをやっております。

この二つの取り組みについてご報告をさせていただき、委員の皆さま方のご意見を賜ればと思っております。

今後も我々は、教育委員会と連携をしまして、未来を担う青少年、子どもたちのチャレンジを全力で応援してまいりたいと思ひます。そのことによって、我が福岡県が世界から選ばれるようなすばらしい県になっていくことを目指して取り組みを続けたいと思ひますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

どうぞ今日はよろしくお願い致します。

(坂田局長)

ありがとうございました。

それでは議事に入ります。

本日は、まず、「未来の地域リーダー育成プログラム事業」について報告した後、『福岡から世界へ』人材育成プロジェクト』について報告します。その後、意見交換となっております。

それでは、まず、青少年育成課から報告をお願いいたします。

(野中青少年育成課長)

青少年育成課長の野中と申します。今日はよろしくお願い致します。

当課で取り組んでおります「未来の地域リーダー育成プログラム事業」についてご説明申し上げます。

お手元配付の資料、資料1の1ページをご覧ください。

まず、この事業の目的でございます。青少年が自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して、解決に向けて行動し、意見を表明できる力を備えることにより、将来、地域をは

じめさまざまな場で活躍する人材を県内各地で育成するものでございます。

次に、事業の概要でございます。先ほど知事からもお話がありましたが、本事業は、松浦委員にも大学生ボランティアの派遣でご協力いただいておりますが、平成24年から田川地域で実施しております田川飛翔塾をモデルとしまして、この取組に賛同する市町村と協議しながら事業内容を構築しているものでございます。

基本的には中学生を対象とし、5日間の合宿型の研修となっています。北筑後地域、久留米地域におきましては、小学生等も参加いたしまして、通年のカリキュラムを設けるなど、地域ごとに取組が異なっております。

2ページ目をお願いいたします。

令和6年度には9地域35市町村でこの取り組みを実施しておりまして、参加人数は、久留米市を除きますと172名となっております。久留米市は現在未実施の事業もございまして、まだ参加人数の集計ができておりません。文化芸術リーダー育成事業など学校単位で取り組んでいるものもございまして、今年度は1,000人以上の参加になる見込みでございます。

事業カリキュラムにつきましては、当課と市町村教育委員会の職員等で構成する実行委員会およびこうした人材育成研修事業に知見を有するコーディネーターと共に意見を出し合いながら決定していきませんが、多くは、地域にゆかりのある企業経営者、各分野で活躍しているリーダー等、そういった方々による講義のほか、体験活動、伝統工芸品などの地域資源を学ぶフィールドワーク、参加者同士でのグループワークを行いながら、学びを深めていく内容で構成されております。

3ページ目をお願いいたします。本事業の成果でございます。

本事業は学力テストなどにより理解度を確認できるような数値化できるものではなく、自主性、行動力、コミュニケーション力など、そういったものの向上を目指すもので、いわゆる非認知能力を伸ばしていくということを目的としております。そのため、今後、地域をはじめとするさまざまな場や分野でリーダーシップを発揮して活躍できるような人物になるために必要な力として、表頭の項目に示しております、共感される力、自己肯定・自己効力感、コミュニケーション力、目標達成、考える力、この五つの項目を設定いたしまして、一つの項目につき四つの質問で構成するアンケートを研修の初日と最終日に参加生徒本人に実施いたしまして、各生徒がどれぐらい成長できたかを確認いたしました。その結果、全ての地域で各項目の平均値が上昇したところでございます。

4ページをお願いいたします。こちらは、アンケートの自由記載欄に寄せられました参加生徒の主な声を記載させていただいております。

紹介させていただきますと、自分の強みが分かり今後の目標を決められた、リーダーシップへの理解が深まったり、国内外での課題に挑戦する講師の活躍に刺激を受けたり、英語の大切さ、コミュニケーションの大切さ、そういったものを感じたお子さんなど、生徒たちの今後の歩みに当該事業がよい影響を与えたことがうかがえる結果が出てお

ります。

5 ページ目をお願いいたします。令和 6 年度に開催いたしました 9 地域のうち、嘉飯桂地域についてご紹介したいと思います。

このプログラムは、研修名を嘉飯桂未来塾と名づけて実施しています。事業概要は資料のとおりでございますが、中学 2 年生 20 名が参加いたしまして、3 泊 6 日の日程となっております。九州経済連合会名誉会長の麻生泰氏をはじめ、地域にゆかりのある講師陣にご協力いただきました。

本日は、この嘉飯桂未来塾の動画を用意いたしましたのでご覧いただければと思います。

(動画視聴)

(野中青少年育成課長)

ご視聴ありがとうございました。

次年度以降も、より効果の高いプログラムとなりますよう、地域のカリキュラムにつきまして市町村と協議を進めてまいります。

今後もこの未来の地域リーダー育成プログラムを続けまして、失敗を恐れず、未来に向かってチャレンジする青少年の育成に取り組んでまいりたいと思っております。

説明は以上でございます。

(坂田局長)

それでは続きまして、高校教育課からご報告をお願いいたします。

(日高高校教育課長)

高校教育課長の日高でございます。よろしくお願いいたします。

「『福岡から世界へ』人材育成プロジェクト」についてご報告をさせていただきます。

まず、本事業の目的でございますが、将来、世界で活躍する人材を育成するため、未来を担う高校生が海外に関心を持つ契機となるよう、短期留学研修プログラムを実施するものでございます。

本事業の応募者数でございますが、募集人員 55 名に対しまして、昨年度は 296 名でございましたが、今年度は 111 名増え、407 名となっております。

選考方法は、一次選考が書類選考、二次選考がオンライン面接を実施しております。

費用につきましては、家庭の経済状況にかかわらず、多くの高校生に海外留学を体験してもらうため、現地での食費、パスポート取得費等以外は県で負担することとしております。

このプログラムは大きく二つのコースに分かれております。アメリカのサンフランシスコで、海外企業や大学等によるハイレベルな研修を受け、最先端の知識・技能を学ぶ「シリコンバレーコース」には 10 名が参加をしております。また、海外企業における

職場体験などを実施する「海外就業体験コース」は、ハワイ、ニューサウスウェールズ、シンガポールの3地域で実施し、各コース15名の計45名が参加をしております。

また、全コースに共通いたしまして、研修の最終日には、訪問国の県人会の方々に対して、探究テーマに基づいて調査した内容を発表しております。報告後には県人会の方と意見交換を行い、日本企業の海外での活躍や、海外で必要とされているものは何かなどを学ぶことができます。

次に、各コースの研修内容についてご説明をさせていただきます。

まず、「シリコンバレーコース」についてでございます。主な研修プログラムは、ミルズ高校との交流およびホームステイ、大学訪問、各種企業訪問、県人会との交流でございます。

まず、ミルズ高校との交流では、授業で日本語を勉強している生徒の家庭にホームステイをして、一緒に登校し、一緒に授業を受け、アメリカの学生生活を体験しております。

また、スタンフォード大学などを訪問し、日本人研究員から人体に埋め込むICチップの開発などの研究内容の特別講義を受け、大学での高度な研究内容に驚きながらも意欲的に質問や議論をして研究に取り組んでおります。

次に、ロボットを開発しておりますスタートアップ企業訪問では、社員の方から仕事内容の説明以外にも、どのようにしてシリコンバレーという地で多くの企業が生まれ、成功につながっているかについても伺いすることができ、自分の将来像を想像できるような大変有意義な研修となっております。

このシリコンバレーコース参加者の感想といたしましては、「起業家、エンジニア、研究者、学生など多種多様な方と出会い、自分自身の人生を創造するヒントとなった」、あるいは「世界を舞台に働きたいという気持ちが強くなった」というような感想がございました。

次に、「海外就業体験コース」のハワイコースについてご説明をいたします。主な研修プログラムは、ワンヘルスに関する講義、自然農園等での体験、現地高校生や県人会との交流でございます。

まず、ワンヘルスにつきましては、ハワイ大学のサンドラ・チャン教授から特別講義を受けております。このプロジェクトは事前指導を3回受講する中で、それぞれで研修テーマを設定しておりますが、このサンドラ・チャン教授には昨年10月に福岡に来られた際、同じ時期に行った事前指導でも講義をしていただいております。

また、自然農園での農業体験では、オーバーツーリズム対策や農薬等を使わない自然農法について考えるよい機会となっております。

ワイパフ高校では、生徒の皆さんと互いの国の伝統文化や学校での取組を紹介し合うなどの異文化交流を行いまして、県人会の皆さんとの懇親会では、海外での生活の様子や異文化社会で生活する上で大切にしていることなどを教えていただきました。このワ

ワイパフ高校との交流につきましては、令和5年4月に締結しました教育分野での覚書と、令和6年9月に締結されましたワンヘルス推進に係る覚書に基づく生徒間交流となっております。

また、ハワイ地域社会の生活文化を体験するため、ホストファミリーの家でのホームステイも行っております。

なお、この事業のほかにも、ハワイ州との交流といたしましては、水産高校におきまして、平成6年度から長期航海実習でホノルル港に寄港した際に州立高校との交流活動を行っております。また、ハワイ州のキャンベル高校とは、昨年度、同校がバスケットボールの交流事業で福岡を訪れた際に、水産高校と宗像高校の生徒が交流を行い、県立高校の修学旅行でもハワイ州を訪れるなど、相互の交流が行われております。今回は、キャンベル高校以外の州立高校にも福岡県立高校との交流の機会を設けたいというハワイ州教育省の意向がございまして、ワイパフ高校への訪問となったものでございます。

このハワイコース参加者の感想といたしましては、「日本にいただけでは想像すらできなかった多くの視点に触れる貴重な体験となった」「将来海外で働きたいという目標ができた」というような感想がございました。

次に、ニューサウスウェールズコースについてご説明をいたします。主な研修プログラムは、物流現場の視察、農園・酪農場研修、現地高校生や県人会との交流でございます。

まず、フレミントンマーケットという青果市場では、輸出経路を含めた物流の仕組みを実際に販売している方に質問し、説明を聞くことができました。

また、酪農場研修では、全ての牛の耳にＩＣタグがつけられ、毎日１頭ごとの搾乳量や健康状態がデータ管理されているなどの説明を受けております。

次に、現地の高校生との交流や県人会との交流では、オーストラリアの学校生活の様子を知るなど、多くの気づきがある体験報告会となっております。

このニューサウスウェールズコース参加者の感想といたしましては、「今まで自分にはなかった新たな視点が身につき、大きく成長できた」「他国の文化や人々と積極的に関わっていききたい」というような意見がございました。

次に、シンガポールコースについてご説明をいたします。主な研修プログラムは、マレーシア工科大学での交流や循環型農業事業の視察、福岡県企業会企業の訪問や、現地市場調査などでございます。

まず、マレーシアでは、マレーシア工科大学を訪問し、マレーシアにおけるＳＤＧｓの取組についての説明を受け、日本との生活の違いを改めて認識いたしております。

また、有機栽培の大規模農業施設では、他国から輸入した生ごみを土に再生し、野菜や果物を育てる活動について説明を受け、農業を通して環境問題や食について学ぶ機会となっております。

次に、シンガポールでは、アントレプレナーシップについて学んでおります。スター

トアップ企業は、以前はお互いが競争相手でしたが、今は同じ志を持つ者がお互いに協働することが大切という説明に、大変感銘を受けておりました。

また、日本企業の株式会社山九様を訪問し、多文化社会ならではのご苦勞を感じ取ることができました。

このシンガポールコース参加者の感想といたしましては、「自分の価値観を広げる機会となった」「固定概念や心の壁がなくなり、視野が広がった」というような感想がございました。

以上が研修の内容でございますが、最後に、昨年度のシリコンバレーコースに参加した、東筑高校卒業生の堂菌 玲花さんの報告動画をご覧ください。

彼女は将来、国連食糧農業機関の職員として飢餓で苦しむ世界の人々のために働くというような志を持っております。今回の研修後は、ネパールで孤児院のフィールドワークに参加したり、直方市でこども食堂を開いたりするなど、夢をかなえるべく挑戦を続けておまして、来年度からは海外大学に学位取得留学をするための準備をしているところでございます。

それでは、報告動画をご覧ください。

(動画視聴)

(日高高校教育課長)

今の堂菌さんのような方を、福岡から世界を目指す人材として育成できるように、このプロジェクトの充実に取り組んでまいりたいと思います。

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(坂田局長)

それでは、「未来を担う人づくり」についてご意見をお伺いいたします。何かご意見はありませんでしょうか。

(堤委員)

よろしいでしょうか。教育委員会の中での活動ということでございましたので、まず、そもそも子どもの頃にいろいろな勉強をして、そしてそれを社会に出て形にしていくというところで、いろんな手順というか、流れがあるんですね。「知識から知恵へ」という言葉から社会実装へという流れ。それは、体験をしたりとか、いろんなところでいろんな学びをしないと座学だけでは学べないもの。そういったものにこういった感動を与えるという付加価値をつけていく。

感動というのは私、記憶に残ると思ってるんです。そして記憶に残るものっていうのは継続性があるんじゃないかということで、そういう意味で、先ほどから地域でのリーダー育成も「福岡から世界へ」人材育成プログラムも、そういった子どもさんたちの思いがアンケートでも何でも全部出てたんじゃないかと思います。ですから、ぜひその部

分を大切にしていきたいなという感想です。

その上で二つの質問と一つのお願いがあるんですが、一つは地域リーダー育成プログラムを合宿形式にしていますよね。つまり、いろんなお話があった後、泊まるということですね。この合宿のそういう時間帯の子どもたちの過ごし方について、何か狙いがあったのかということの一つをお聞きしたいのと、それから、二つ目の人材育成プログラム、これ県人会の方との交流というのは、まさに一つの特徴的なものじゃないかと思います。これが子ども達が世界に出ていく時の何らかの足がかりになるのかということも含めて、何か狙いがあれば教えていただきたい。

最後に、最後のビデオですね。非常に感動的でよかったんですが、「総合教育会議の皆さんへ」と、このためだけに作っていただいたのにちょっとびっくりしたんですけど、もったいないなと思ったので、ぜひもっとたくさんの人に見ていただけるよう、何か工夫をしていただければと思います。

よろしくお願いします。

(野中青少年育成課長)

ご質問いただきました青少年育成課で中学生向けの合宿形式のプログラムでございます。合宿をしているところでは最終的に地域の課題だったりグループワークをして発表するというのを子どもたちに塾の最初に言います。実際5日間しかないからですね、夜の時間を使って自分たちが今日見てきたことだったりとか日頃考えていることを話し合いながら、どういう発表をしようかというような議論を夜も遅くまでやっているという姿を見せてもらっています。子ども達が夜遅くまで起きているとあれなので時間になったら早く寝せるようにはしていますけれども、そういう中で他校の生徒とコミュニケーションを取る場にもなっていますので、自分の中学校以外のお子さんとのコミュニケーションを取る場にもなっていました。

(堤委員)

ありがとうございます。

(日高高校教育課長)

高校教育課でございます。県人会にご協力いただいている意図でございますが、今回のこの事業というのは、あくまでもこの後本当の留学を目指すためのきっかけづくりの事業でございます。この事業をきっかけとして次に本当の留学をする中で県人会の方にもお世話をいただきながら、また現地で就職というようなことも将来的には視野に入れた事業になっていると考えています。

最後の堂蘭さんのビデオにつきましては、いろんなところで、まさに来年の募集をかけるところでも使わせていただきたいと考えているところでございます。

(服部知事)

我々が海外へ行ってさっき申し上げたような企業県人会の皆さんと意見交換することがあるんですけども、そういうところで意見をいただいたことがきっかけです。報道機関なんかにも時々報道されますけれど、ワーキングホリデーとかも、いろいろ目的はあるでしょうが、安易に考えて来すぎてはないのかという厳しいご意見も賜ることがございます。英語も話せない、ただお金が稼ぎたいだけで来ているとかですね、そういうのもシドニーなんかで承ったりしたことがあるんですけど、そういう中で県人会の皆さんも、大学生の皆さんを本格的な留学につなげるというお話があったように、これから自分の進路を考える高校生ぐらいの段階で海外の現場を踏ませてみると。その厳しさも、また楽しさも、そしてそこで何が要るのかと、やっぱり英語力も必要だし、それこそコミュニケーション能力といった人との間の関係をつくる力も要ると、そういうのを学ばせることが必要なんじゃないかというご意見をいただいて、それで教育委員会とご相談してこういう事業を始めました。

(堤委員)

ありがとうございます。

(坂田局長)

ほかにございませんでしょうか。

(松浦委員)

長ければ長いほどよいという観点と、短ければ短いほどよいという観点で二つお願いさせていただきます。

まず、田川飛翔塾ですけど、当初、地域振興課かどこかがやっている頃からずっとお付き合いさせていただいていて、うちのゼミ生を毎年五、六名ぐらい送り込んでたんですけど、あるとき県庁に来たときに職員さんから「誰々さん結婚しましたね」って言われてですね、私は知らなかったんですけど、「何で知っているんですか」って聞いたら、結婚式に呼ばれましたと。ゼミの教員は呼ばれてないんですけど。それは何が言いたいかというとですね、すごく結びつきが強いんです。なので、田川から県内各地に広がってますけど、今は大学生ですけど、今後中学生たちの同窓組織をどう育てていくかっていうのが、非常に宝が宝を生むんじゃないかなと思いました。

それで、長ければ長いほどよいというのは、先ほどの堤先生の話なんですけど、コロナの前はたしか4泊5日、もしかしたらもうちょっと長いものをやってたんですよ。それが長ければ長いほどいいというのは、まず、知らない中学校から集まって、ちょっとよそ行きなお付き合いで仲よくというグループワークができてくるんですけど、やがて崩れるんですよ。長いとそれが再構築されるので、できれば長ければ長い宿泊のディ

スカッションカリキュラムのほうが再構築までいけるからいいんじゃないかと思って
おります。

今度は短ければ短いほどよいというのはですね、いわゆる海外の話なんですけど、私はここにあるバークレーで数年、あとオーストラリアのアデレードの大学に1か月行って、先ほど感動という言葉がありましたけど、本当に夢のような日々でした。私は東京都から京都、そして福岡に来たんですが、ここに二十数年過ごして福岡の地の利というのはすごくあってですね。海外でこういう経験をさせるっていうことで、子どもたちが現地で何を学ぶか、触れるか、驚くかというのは非常に重要なことなんですけど、プラス福岡で言うと、我々は島国なので、国境に対するハードルがすごく高いんです。これは全国どこでもそうですけど、でも福岡は隣国が近いので、国境をまたぐという移動を目的にしたプログラムができるんじゃないかと思っています。言ってみれば日帰りだって可能なんです。特に仁川だったり、第2ターミナルだったらすぐ行って帰ってこれるので。なので、現地で何を学ぶかという、いわゆる正統派の取組だけでなく、福岡ならではの移動っていうことを目的にして、国境を越えることのハードルを下げる取組を実施する、そうすると割とたくさんの子が行けると思うんですよね。

なので、短ければ短いほどいいというのは、日帰りしてきたよ海外にっていうそういう体験や経験が非常に生きてくるんじゃないかなと思って、それは東京や京都ではできないプロジェクトになるんじゃないかなと思いますので、そういう短いプロジェクトもぜひご考案いただけたらと思います。

余談ですけど、今シリコンバレーでスタンフォードとかバークレーの話が出ていますが、数日前、昨日ですか、一昨日ですか、スターゲートプロジェクトというのが発表されて、日本からは孫さんが500ビリオンを持っていくという話が、テキサスのオースチンなんですよ。なのでテキサスも加えていただければと思います。

以上です。

(坂田局長)

ほかにございますでしょうか。

(木下委員)

この福岡から世界へのプランを全て見ると、本当にプランニングする側が色んな団体と交渉しながら、子どもたちにも事故がないように、ここまできっちり作り上げるというのは本当に大変な努力をされたんだろうなという、そこに敬意を表したいと思います。

今の最後の映像でも言ってましたけど「海外に行きたいけれども行けなかった」という、それはすごく大事なことだと思っていて、最近の格差のある社会では、海外に行っている子は何度も行っているし、行っていない子は思いばかり強くて行けてないところがあります。私は最初このプロジェクトは県立高校向けかなと思っていたんですが、私

立の子も入ってるんだって、それはすばらしいなと思ってはいるんです。だけれども、一応要件としては、海外に行ったことがないとか、何度も行っている子はここから外してもいいのではないかなという気がしています。

そして、最初は農場体験とか必要なのかなという、昔の移民促進みたいなイメージで思ってたんですけど、写真等を見ていると、若い子たちは農場だろうと大学だろうときっと同じようにみんなでわいわい楽しいんだろうな、むしろ太陽の下で体を動かしているほうが刺激になるのかもしれないなと思いを新たにしました。

大事なのは、どういう人材を育てたいのかっていうことだと思うんですよね。最近私も奨学金を高校生に出す団体の審査をしているんですが、どうもそこに来る子たちを見ているとみんなステレオタイプで、部活動も頑張り、それから生徒会も会長をやっています、成績の方も頑張っています、社会をよくしたい、ソーシャルビジネスに興味がある、海外に出て貧しい人の手助けをしたいって、どこかにこういうマニュアルがあるのかなっていうことをみんな言うんですね。そうじゃなくて、コミュニケーションは苦手だけど、ずっと本を読んでいるという子だっといういいと思うし、あんまり画一化されないような形が望ましいなと、それを見ていて思うところはあります。ちょっと話がまとまらないんですけど、最近考えているところです。

でも、プロジェクトとして本当にすばらしいと思うし、もう一つ付け加えるとなると、あまりお金に余裕のない家庭の子っていうのは、海外はもちろん国内の移動もままならないっていうところがあって、今高校1年生とか2年生って、オープンキャンパスに友達同士で遠いところに出かけて行って、帰りにちょっとユニバに行ってくるとか、東京ディズニーランドを見てくるとか、遊びとくっつけて何泊か友達同士で行ってくるみたいな話をよく聞くんですけど、それも考えたらすごくお金のかかることで、お金に余裕がない家の子はオープンキャンパスもそんなに頻繁に行けていないんだろうなと思うので、その辺りにちょっと補助してあげることが県としてできたらいいのかなという気がしています。

(坂田局長)

そのほかにございませんでしょうか。

それでは最後に知事から一言よろしくお願いいたします。

(服部知事)

本当に今日いろいろ見せていただき、聞かせていただいて、本当に子どもたちはすごいなと改めて卒直に思いました。それと一つ意外だったのが、嘉飯桂未来塾の映像を見て、男の子が多いなと。男子が多い女子が多いは全然関係ないんですけど、こういうプログラムって最近女子の比率が高いなとずっと思っていたので、このチームをみて、男子がすごく多くて、そこは単純に珍しいなと思いました。

それから、僕もハワイに行ってハワイ大学などに行くと、建物の中に入る前に向こうの儀式でお迎えいただくんですね。あれは何だろうなと思うと、やはり自然界への敬意、自然というものに対する恐れとか敬意とか、そういうものなんだなと思って。特にハワイというところはそういう人々の意識というのが強いところだなと思って。そういうのも高校生の皆さんは日本ではなかなか感じられないところかもしれないので、体験をしてもらえたのならよかったのかなと思っています。

それと、最後の堂蘭さんのお話の中でも、失敗を恐れずやっていきたいという、これはやっぱり重要だと思いました。私もボストンに行ったときにMITのオーレット教授と意見交換しましたが、オーレット教授も言うのが、MITも毎年700件のスタートアップを出すんだけど、大体3分の2は失敗だって。だけどいいじゃないかと。失敗して失敗して最後成功すればいいし、それをまた成功に導くためにチームをつくっていく力も必要だし、ジョフ・ベゾスのようなスーパースターが作ってるっていうんじゃないんだよ。さっき彼女も言っていましたけど、チームでやっていく時代になっているということ、そういうのもみんな学んでいくと。失敗の中で学んでいって、立ち上がってまた成功をつかむということ、自分たちはそれも教えなきゃいけないんだということをオーレット教授が一生懸命言っておられたのがすごく印象深く残っています。日本の場合、失敗を認めない社会と言うと言い過ぎかもしれませんが、失敗することを恐れる、また、親としても子どもにはなるべく失敗せずにいてほしいという、それは親心なんですけど、でも、やっぱり失敗の中から得るものとか、さらに大きくなっていく、太くなっていく、強くなっていくものもあると思うので、そういうことをこういう体験の中で子どもたち自身が感じ取ってくれるとうれしいなと思いました。

以上です。

(坂田局長)

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして令和6年度福岡県総合教育会議を終了します。ありがとうございました。